

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式												
E149M018		情報処理演習 (Practice of Information Processing)																		
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
必修(高免のみ)	2	3	教育学部			氏名 都甲 由紀子 E-mail togo-yukiko@oita-u.ac.jp 内線 7561														
授業の概要	家庭科の教員を目指す学生としてよりよい生活のための情報処理についての基礎知識を得るとともに、それを活用して情報機器を使用する基本的な技術を身につけ、家庭科の情報機器を使いこなしてプレゼンテーションや動画制作ができるようになる。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	情報処理についての基礎知識を得て、よりよい家庭生活のための情報活用力を身につける。																			
目標2	情報機器を使用して統計処理ができる。																			
目標3	情報機器を使用してプレゼンテーションができる。																			
目標4	情報機器を使用して動画制作ができる。																			
目標5	著作権に配慮して課題に取り組む。																			
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	ガイダンスとよりよい生活を営むための情報リテラシー																			
2	生活設計を具体化するための情報、衣食住の生活に必要な情報の収集と整理																			
3	著作権について																			
4	家庭科の資料制作(1)																			
5	家庭科の資料制作(2)																			
6	データの統計処理について(1)基礎																			
7	データの統計処理について(2)応用(家庭科の学習内容からの課題、例:調査データの処理)																			
8	プレゼンテーションソフトの活用(1)基礎																			
9	プレゼンテーションソフトの活用(2)応用(家庭科の学習内容からの課題、例:教材づくり、手縫いの基礎)																			
10	プレゼンテーション資料の作成実習(1)基礎																			
11	プレゼンテーション資料の作成実習(2)応用(家庭科の学習内容からの課題、例:自主課題発表内容のまとめ)																			
12	動画教材の制作実習(1)基礎																			
13	動画教材の制作実習(2)応用(家庭科の学習内容からの課題、例:教材動画の制作)																			
14	動画発表会																			
15	授業のまとめ																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	*調べ学修				工夫 その 他の	*アイズブレイク													
モニタリング	B:意見の表現・交換	*プレゼンテーション					*動画の活用													
評価	C:応用志向	*動画制作					*LMS(Moodle)の活用													
レポート	D:知識の活用・創造	*学生同士の相互評価																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	事前に提供された資料等に基づいて予習する(15h)。																		
	事後学修	授業中に課した課題に取り組む(8h)。 授業中に指示をした実習に取り組む(12h)。																		
教科書	指定しない 随時資料を配布する																			
参考書	*Apple "Everyone Can Create 教師用ガイド" https://www.apple.com/jp/education/k12/everyone-can-create/																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	問題演習	20%																		
	統計処理レポート	10%																		
	プレゼンテーション	20%																		
	動画制作	30%																		
	最終レポート	20%																		
レポート, 作品を総合して評価する。																				
注意事項	課題に対して主体的に取り組む姿勢を求める。																			
備考	受講者の情報活用能力に応じて、課題を設定する。 ハイパーネットワーク社会研究所のシンポジウム, 被服教育勉強会など授業外の学修機会についても紹介する。																			
リンク	参考動画教材 URL https://togolabo.jp/material/video/																			

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	中学校・高等学校 家庭科教諭，高等学校 情報科教諭
実務経験を いかした教 育内容	中学校・高等学校家庭科の発展的な内容を扱い，高等学校情報科で培った情報活用実践力を応用して教材・作品を制作する。